

# 千葉県における環境大気中のダイオキシン類濃度について—2004 年度の結果—

仁平雅子 吉澤 正 半野勝正 清水 明 宇野健一

## 1. はじめに

ダイオキシン類対策特別措置法に基づき、千葉県では環境大気中のダイオキシン類の濃度を把握するための調査が行われている。ここでは 2004 年度の調査結果について報告する。なおこの調査は千葉県環境生活部大気保全課の事業の一環である。

## 2. 調査地点および調査期間

表 1 に調査地点を示した。調査期間は 2004 年度より前年度までの 4 季調査から、夏季（2004 年 7 月 14 日～21 日）および冬季（2005 年 1 月 19 日～26 日）の 2 季調査になった。試料採取は委託機関（中外テクノス（株））が行い、分析は県北 6 地点（表 1 の No. 1～6）を委託機関が、県南 6 地点（No. 7～12）を環境研究センターが担当した。

## 3. 結果

### 3-1 季節別および年平均値の結果

ダイオキシン類の測定結果を表 1 に示す。夏季と冬季では冬季の結果が高い値を示し、例年通りの傾向であった。年平均値は 0.024 から 0.12 pg-TEQ/m<sup>3</sup> で、全ての地点で環境基準値（0.6 pg-TEQ/m<sup>3</sup>）を下回る結果であった。

表 1 2004 年度大気環境調査結果(単位:pg-TEQ/m<sup>3</sup>)

No	地点名	夏季	冬季	年平均
1	野田市野田	0.078	0.17	0.12
2	印西市高花	0.055	0.15	0.10
3	成田市加良部	0.058	0.13	0.094
4	佐原市大倉	0.043	0.060	0.052
5	銚子市唐子	0.053	0.069	0.061
6	四街道市鹿渡	0.052	0.12	0.086
7	横芝町横芝	0.066	0.11	0.088
8	茂原市高師	0.034	0.064	0.049
9	勝浦市小羽戸	0.016	0.032	0.024
10	館山市亀ヶ原	0.020	0.038	0.029
11	君津市久保	0.038	0.091	0.065
12	天津小湊町清澄	0.021	0.040	0.031

### 3-2 年平均値の経年変化

1999 年度から 2004 年度までの年平均値を表 2 に示す。1999 年度から 2004 年度にかけて年平均値は全体的に減少傾向にある。これは大気への排出削減の効果によるものと考えられる。2003 年度から 2004 年度にかけては全体的に横ばいもしくは微増しているが、これは前年度までの 4 季調査から 2004 年度は他の季節より高い濃度が見られる冬季調査を含む 2 季調査に変わったために、年平均値が高めになったものと考えられる。なお、2001 年度は冬季調査が本来の 1 月調査から 3 月に再測定となったために年平均値が全体的な傾向より低めに出ている。

表 2 1999～2004 年度における年平均値(単位:pg-TEQ/m<sup>3</sup>)

No	1999	2000	2001	2002	2003	2004
1	0.46	0.27	0.078	0.13	0.10	0.12
2	0.46	0.17	0.13	0.12	0.088	0.10
3	0.21	0.28	0.065	0.11	0.068	0.094
4	0.24	0.084	0.032	0.065	0.069	0.052
5	0.70	0.071	0.034	0.060	0.077	0.061
6	0.56	0.12	0.077	0.12	0.074	0.086
7	0.32	0.15	0.091	0.25	0.50	0.088
8	0.19	0.16	0.076	0.097	0.047	0.049
9	0.17	0.082	0.038	0.28	0.024	0.024
10	0.18	0.074	0.048	0.046	0.039	0.029
11	0.35	0.15	0.11	0.14	0.056	0.065
12	0.10	0.063	0.043	0.038	0.016	0.031

## 4. まとめ

千葉県内 12 地点における環境大気中のダイオキシン類の調査を行った結果、年平均値は全ての地点で環境基準を大きく下回った。1999 年から 2004 年度にかけて年平均値は全体的に減少傾向にあることが示され、大気への排出量削減の効果によるものと考えられた。また、4 季調査から 2 季調査に変わった事により、年平均値が高めに評価されていることが推測された。